

～より多くの方に愛される美術館に～

平成 29 年度 横須賀美術館 事業計画書

～より多くの方に愛される美術館に～

① 市民・市民の芸術鑑賞の普及
 ② 市民の芸術鑑賞の普及
 ③ 市民の芸術鑑賞の普及
 ④ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑤ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑥ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑦ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑧ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑨ 市民の芸術鑑賞の普及
 ⑩ 市民の芸術鑑賞の普及

平成 29 年 (2017 年) 4 月
 横須賀美術館

平成 29 年度 横須賀美術館事業計画

～より多くの方に愛される美術館に～

横須賀美術館は、美術を通じた様々な機会を提供し、市民の美術に対する理解と親しみを深めることを目的に平成 19 年に開館しました。そして今日まで、国内外の優れた美術を紹介する企画展、横須賀・三浦半島にゆかりのある作品など約 5,000 点のコレクションを紹介する所蔵品展、谷内六郎展や教育普及に資する事業を展開し、一つの指標としています観覧者数 10 万人を毎年度達成してきました。

開館 10 周年となる平成 29 年度は、従来の活動の枠組みの中ではありませんが、これを記念する展覧会や各種イベントも計画しています。具体的には、企画展「美術でめぐる日本の海」、観覧者の投票によるコレクション展、記念コンサート、ボランティアによる 10 周年イベント、美術館活動のパネル展示などを行っていきます。

これまでの 10 年の活動を振り返りつつ、平成 29 年度も従来と変わらず多様な展覧会や各種の教育普及等事業のひとつひとつにしっかり取り組み、当館の掲げる 3 つの使命を果たしていくことで、市民に愛され地域に親しまれる美術館を目指してまいります。

◎横須賀美術館の使命・目標

I 美術を通じた交流を促進する

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

II 美術に対する理解と親しみを深める

- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する。

横須賀美術館 開館 10 周年記念企画

開館 10 周年を記念して横須賀美術館では、感謝の気持ちを込めまして、皆様により一層親しんでいただくために、展覧会やコンサートや各種イベントを計画しています。

◆ 展覧会

企画展 : 開館 10 周年記念 美術でめぐる日本の海
開催期間 7 月 8 日～8 月 27 日

所蔵品展 : みんなが選んだベスト・コレクション
開催期間 4 月 15 日～7 月 9 日
: ボランティアが選んだ朝井閑右衛門
開催期間 7 月 15 日～10 月 1 日

谷内六郎館 : みんなが選んだ谷内六郎
開催期間 10 月 7 日～12 月 17 日

◆ コンサート

横須賀芸術劇場少年少女合唱団コンサート
開催日 4 月 29 日

横須賀ゆかりのアーティストを招いてのコンサート
開催日 (調整中)

◆ イベント

美術館ボランティア・すかび隊 10 周年記念イベント
「ぐるぐる 10 (てん)」
開催日 4 月 30 日

横須賀美術館開館 10 周年パネル展示
開催日 4 月 28 日～8 月 27 日

10 周年記念レゴ®ブロックモザイクアート展示
開催日 4 月 28 日～6 月 25 日

美術館で展示後、市庁舎、行政センター、ポートマーケットでの展示を予定

◆ プレゼント企画

所蔵品展ポストカードプレゼント
配布日 4 月 15 日～4 月 16 日
先着 250 名様に所蔵品のポストカードセットをプレゼント

オリジナルグッズプレゼント
配布日 4 月 28 日～5 月 7 日
先着 300 名様にメモパッドまたはジップケース 1 個をプレゼント

10 周年記念限定オリジナルバッグプレゼント
配布日 (調整中)

Ⅰ 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【事業計画】

1 展覧会の実施

「広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」ための事業の要は企画展です。今年度も、社会教育施設としての役割と交流拠点としての役割を認識し、バランスを考慮した企画展を実施します。

展覧会及び観覧者数（見込）

展覧会名		会期	観覧者数(人)	備考
企画展	横須賀ゆかりの友禅作家 中村光哉展	4/1-4/16	2,000	H28 事業
	デンマーク・デザイン	4/28-6/25	18,000	
	美術でめぐる日本の海	7/8-8/27	24,000	
	ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展	9/9-11/5	25,000	
	没後40年 伊藤久三郎展	11/18-12/24	7,000	
	第70回児童生徒造形作品展	1/11-1/29	13,000	
	青山義雄展 きらめく航跡をたどる	2/10-3/31	10,000	
	所蔵品展のみの期間	上記以外	6,000	
計			105,000	

2 広報・集客促進事業

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。29年度は開館10周年にあたることから、10周年記念コンサートや記念グッズのプレゼント企画等の集客につながる関連イベントを予定しています。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
- ・公共交通機関への広告掲出
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
- ・インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
- ・年間パスポート、前売券の販売

(3) 外部連携による集客推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
- ・ヨコスカサークルバスへの参加など米海軍横須賀基地在住者の誘致

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
- ・観覧ツアーなど美術館活動による交流の実施
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画（ツアープランなど）の検討、提案
- ・旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
- ・ウェルカムトークの実施

(5) 商業撮影の受入と誘致

- ・ドラマや映画、雑誌等の商業撮影の受入
- ・撮影者側のニーズに対応した誘致の実施

【達成目標】 年間観覧者数 100,000人以上

[目標設定の理由]

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・一方、観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

年間観覧者見込みに対する達成状況

(単位：人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
見込み (A)	102,000	104,000	109,000
実績 (B)	113,007	114,861	108,413
達成率 (B/A×100)	110.8%	110.4%	99.5%

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

【目標設定の理由】

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市の観光立市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

支分 2019年度	前年度 2018年度	前年度 2017年度	
600,001	500,101	600,301	(A) 本館
210,801	199,111	130,111	(B) 附属
383,199	301,011	370,191	(C) 企画展・特別展

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

【事業計画】

美術館ボランティア活動の推進

ボランティアが美術館の活動を支援することで、自らのやりがいを見出し、市民の美術への親しみを増す一助となるとともに、市民の交流の場となることを目指し、ボランティア活動の推進を図ります。あわせて、ボランティア自身の美術への理解を深めるための育成を行います。

- (1) ギャラリートークボランティア 年 55 日
 所蔵品展のギャラリートークを行います。(約 50 回)
 *ボランティアの自主研修を補助します。(5回)
- (2) 小学生美術鑑賞会ボランティア 年 51 日
 小学生美術鑑賞会で来館する小学 6 年生の受入れ、鑑賞補助をします。(約 46 回)
 *企画展のレクチャーを実施します。(5回)
- (3) みんなのアトリエボランティア 年 12 日程度
 障害児向けワークショップ「みんなのアトリエ」の補助をします。
 *ボランティアを募集します。
- (4) プロジェクトボランティア 年 30 日程度
 ボランティアイベントの企画・準備・実施をします。
 春にはプロジェクトボランティア結成 10 周年を記念したイベントを実施します。
 時期：春、夏、冬の 3 回
 *ボランティアを募集し、原則として毎月 2 回会議を行います。
- (5) プロジェクト当日ボランティア 年 3 日程度
 ボランティアイベント実施の補助をします。

美術館ボランティアの活動日等一覧

	活動日	募集	研修	任期
(1)	GT:毎週日曜日 研修:日曜日	隔年4~5月 *29年度は 募集せず	年間5回	1年間(更新有)
(2)	6月~3月の平日 研修:木曜日	毎年4~5月 *29年度は 募集せず	年間5回	1年間(更新有)
(3)	毎月第3土曜日	随時	なし	1年間(更新有)
(4)	原則として毎月第2・4土曜 日、イベント準備日・開催日	随時	なし	1年間(更新有)
(5)	年3回	イベントごと	なし	イベント当日限り

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,000 人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

[目標設定の理由]

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・29年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集を行わないため、研修の回数は28年度より少なくなります。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2～3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・28年度は、クリスマス時期に屋外展示ができないため、特別に秋にハロウィンイベントを行い、1年間で4回のボランティアイベントを行いました。29年度は、秋にイベントを行わないため、イベント参加者数は少なくなります。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、29年度の目標は、延べ2,000人とします。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度 (目標)
ギャラリートークボランティア	323	284	334	200
小学生美術鑑賞会ボランティア	194	180	263	200
みんなのアトリエボランティア	28	20	34	25
ギャラリートーク参加者	345	274	371	300
プロジェクトボランティア	229	210	283	200
プロジェクト当日ボランティア	50	38	27	30
ボランティアイベント参加者	1,086	1,142	1,350	1,045
計	2,255	2,148	2,662	2,000

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めていきます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

II 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

【事業計画】

1 展覧会事業

優れた美術品を展示し、感動と思索を得る場を提供します。

(1) 企画展…幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。29年度は開館10周年にあたり、夏には10周年記念として、当館の作品収集方針でもある「海」をテーマにした展覧会を開催します。春にはデンマーク・デザイン展、秋には子どもから大人まで人気のある作家 tupera tupera による絵本展を準備しています。また、他に伊藤久三郎、横須賀ゆかりの画家である青山義雄展を、そして、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

i 開館10周年 デンマーク・デザイン

4月28日(金)～6月25日(日)

- ・ヤコブセン、ウエグナーらの輝かしい活躍で知られる、デンマーク・デザイン。その歴史と現在を、デンマーク・デザイン博物館所蔵品をはじめとする約190点の家具、テーブルウェア、照明器具などによりご紹介します。

ii 開館10周年記念 美術でめぐる日本の海

7月8日(土)～8月27日(日)

- ・海は、人とモノが行きかう交流、交易の場であり、造形芸術における創造的イメージの源泉でもありました。本展は、海に関わる様々な造形物を取り上げ、日本人と海の関わりを多面的に紹介します。

iii 開館10周年 ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展

9月9日(土)～11月5日(日)

- ・アートユニット tupera tupera 初の大規模な個展を開催します。本展では絵本原面をはじめ、立体作品や映像、インスタレーション作品などを一堂に展示し、ユニークで多彩な世界をご紹介します。

iv 開館10周年 没後40年 伊藤久三郎展

11月18日(土)～12月24日(日)

- ・当館は伊藤久三郎の初期静物画やシュールレアリスム期、戦後の抽象画、デッサンなど生涯にわたる重要で魅力ある作品を多数所蔵しています。没後40年を機に改めて伊藤久三郎という画家の全体像を紹介します。

v 第70回児童生徒造形作品展

平成30年1月11日(木)～1月29日(月)

- ・市立の幼、小、中、高、ろう、養護学校74校園より選抜された子どもたちが日ごろの授業でつくり上げた平面作品・立体作品など約3,000点を展示します。

vi 青山義雄展 きらめく航跡をたどる
2月10日(土)～4月15日(日)

・横須賀出身の青山義雄は1921年にフランスに渡り、洋画家として活躍しました。叙情性ゆたかな初期作品から、色鮮やかな晩年の風景画まで、70年以上にわたる画業をふりかえります。

(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展 … 年4回開催

i 第1期所蔵品展 4月15日(土)～7月9日(日)

特集：みんなが選んだベスト・コレクション

ii 第2期所蔵品展 7月15日(土)～10月1日(日)

特集：ボランティアが選んだ朝井閑右衛門

203gow 編んだ～わーど展

iii 第3期所蔵品展 10月7日(土)～12月17日(日)

特集：岡本健彦

みんなが選んだ谷内六郎

iv 第4期所蔵品展 12月23日(土)～平成30年4月1日(日)

特集：横須賀のアーティスト

2 教育普及事業

知的好奇心の育成と充足の機会を提供します。

(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催 6回

展覧会を深く理解できるよう、外部講師による講演会を開催します。

・開催：土日 定員：各70名程度(先着制)

(2) ワークショップの開催 6回

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるよう、多様なテーマによるワークショップを開催します。

・展覧会に関連したワークショップ 3回

・大人向けワークショップ 3回

・開催：土日 定員：各20名程度(事前申込制)

(3) 映画上映会の開催 2回

優れた映像美術に触れ、多様な表現に親しむことのできる映画会(シネマパーティー)を開催します。

・開催：年2回 定員：30名×2回(事前申込制)

(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク 10回

展覧会の趣旨や見どころ、主要作品の解説など展覧会を深く理解していただくことを目的として開催します。

・企画展毎に1、2回程度 開催：土日(当日自由参加)

(5) 学芸員による展覧会観覧の案内・解説 随時

学生・グループなど、観覧にあわせ展覧会をより楽しく観覧できるよう要望に応じて、展覧会の案内・解説を行います。

3 美術図書室運営事業

美術図書等約2万9千冊を揃えた図書室を運営し、利用者サービスをはじめ、美術への興味や理解が深まる場を提供します。

(1) 所蔵図書の充実

一般的な美術書、子ども向けの美術入門書、展覧会に関連する資料を収集し、幅広い層の利用が可能な蔵書の構築に努めます。

- ・貴重な美術雑誌の欠号補充（古書購入）と補修をし、利用と保存に適した状態にします。

(2) 美術に関する情報提供

- ・受入れた資料をデータベースに登録し、来館者が利用する蔵書検索端末に反映させると共に、利用者の閲覧に供します。
- ・展覧会の開催に併せた関連図書や所蔵資料の紹介を行います。

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

【目標設定の理由】

- ・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。
- ・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（％）とするとき、年度ごとの満足度（％）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
企画展満足度	77.2%	84.6%	87.0%	88.0%

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。